

## 第 12 講 公共投資 (3) 公共投資と経済成長

先生「今日は、公共投資を含む経済成長モデルを説明します」

花子「経済成長モデルって何だろ」

太郎「難しいとやだな」

## 例題 1

次のソロー・モデルを考える.

$$\text{財市場均衡式 } Y_t = C_t + I_t \quad (1)$$

$$\text{投資関数 } I_t = sY_t \quad (2)$$

$$\text{資本蓄積 } K_{t+1} = I_t \quad (3)$$

$$\text{マクロ生産関数 } Y_t = AK_t^\alpha L_t^{1-\alpha} \quad (4)$$

$$\text{人口成長 } \frac{L_{t+1}}{L_t} = n \quad (5)$$

$Y_t$  国民所得,  $C_t$  消費,  $I_t$  投資,  $K_t$  資本,  $L_t$  労働,  $0 < s < 1$  貯蓄率 (一定),  $0 < \alpha < 1$  資本分配率 (一定),  $n > 0$  粗人口成長率 (一定)

- 消費関数が,  $C_t = (1-s)Y_t$  となることを示せ.
- 資本  $K_t$  と労働  $L_t$  に関する次の 2 本の漸化式を導出せよ.

$$\begin{cases} K_{t+1} = sAK_t^\alpha L_t^{1-\alpha} \\ L_{t+1} = nL_t \end{cases}$$

1 人あたり資本を  $k_t$ , 1 人あたり所得を  $y_t$  とおく.

$$k_t = \frac{K_t}{L_t}, \quad y_t = \frac{Y_t}{L_t}$$

- 1 人あたり所得が,  $y_t = Ak_t^\alpha$  で与えられることを示せ.
- 1 人あたり資本に関する次の漸化式を導出せよ.

$$k_{t+1} = \frac{s}{n} Ak_t^\alpha \quad (6)$$

5. 平面  $(k_t, k_{t+1})$  上に, (6) 式の曲線と 45 度線を図示せよ. 長期均衡がただ 1 つ存在し, 広域的に安定であることを示せ.

6. 長期均衡における 1 人あたり資本  $k^*$  が,

$$k^* = \left( \frac{sA}{n} \right)^{\frac{1}{1-\alpha}} \quad (7)$$

となることを示せ.

- 長期の経済成長率は, 人口成長率に一致することを示せ.
- 問題 1, 3, 6 の結果を用いて, 長期均衡における 1 人あたり消費が次式で与えられることを示せ.

$$\frac{C_t}{L_t} = (1-s)A \left( \frac{sA}{n} \right)^{\frac{\alpha}{1-\alpha}} \quad (8)$$

- 長期均衡における 1 人あたり消費が最大となる貯蓄率  $s^*$  を求めよ.

解答

1. (1), (2) 式より,  $C_t = Y_t - I_t = (1 - s)Y_t$ .
2. (2), (3), (4), (5) 式より.
3. (4) 式の両辺を  $L_t$  で割る.
4. 問題 2 の 2 式を辺々で割る.
5. 略
6. (6) 式で,  $k_t = k_{t+1} = k^*$  とおく.
7.  $Y_{t+1}/Y_t = (y^* L_{t+1})/(y^* L_t) = n$ .
8. 略
9. (8) 式中の  $s$  の項に注目する.

$$f(s) = (1 - s)s^{\frac{\alpha}{1-\alpha}} = s^{\frac{\alpha}{1-\alpha}} - s^{\frac{1}{1-\alpha}}$$

とおく.  $s$  で微分すると,

$$f'(s) = \frac{\alpha}{1-\alpha} s^{\frac{\alpha}{1-\alpha}-1} - \frac{1}{1-\alpha} s^{\frac{\alpha}{1-\alpha}-1} = \frac{1}{1-\alpha} s^{\frac{\alpha}{1-\alpha}-1} \left( \frac{\alpha}{s} - 1 \right)$$

$s$	$0$	$\alpha$	$1$
$f'(s)$	$+$	$0$	$-$
$f(s)$	$0$	$\nearrow$ 極大	$\searrow$ $0$

増減表より,  $s^* = \alpha$ .

例題 2

次のマクロ経済モデルを考える.

$$\text{財市場均衡式 } Y_t = C_t + I_t + G_t \tag{9}$$

$$\text{投資関数 } I_t = s(1 - \tau)Y_t \tag{10}$$

$$\text{政府予算制約式 } G_t = \tau Y_t \tag{11}$$

$$\text{資本蓄積 } K_{t+1} = I_t + G_t \tag{12}$$

$$\text{マクロ生産関数 } Y_t = AK_t^\alpha L_t^{1-\alpha} \tag{13}$$

$$\text{人口成長 } \frac{L_{t+1}}{L_t} = n \tag{14}$$

$Y_t$  国民所得,  $C_t$  消費,  $I_t$  民間投資,  $G_t$  公共投資,  $K_t$  資本,  $L_t$  労働,  $0 < s < 1$  貯蓄率 (一定),  $0 < \alpha < 1$  資本分配率 (一定),  $n > 0$  粗人口成長率 (一定),  $0 < \tau < 1$  所得税率 (一定)

1. 消費関数が,  $C_t = (1 - s)(1 - \tau)Y_t$  となることを示せ.
2. 資本  $K_t$  と労働  $L_t$  に関する次の 2 本の漸化式を導出せよ.

$$\begin{cases} K_{t+1} = [(1 - \tau)s + \tau]AK_t^\alpha L_t^{1-\alpha} \\ L_{t+1} = nL_t \end{cases}$$

1 人あたり資本を  $k_t$ , 1 人あたり所得を  $y_t$  とおく.

$$k_t = \frac{K_t}{L_t}, \quad y_t = \frac{Y_t}{L_t}$$

3. 1 人あたり所得が,  $y_t = Ak_t^\alpha$  で与えられることを示せ.

4. 1人あたり資本に関する次の漸化式を導出せよ.

$$k_{t+1} = \frac{(1-\tau)s + \tau}{n} A k_t^\alpha \quad (15)$$

5. 平面  $(k_t, k_{t+1})$  上に, (15) 式の曲線と 45 度線を図示せよ. 長期均衡がただ 1 つ存在し, 広域的に安定であることを示せ.

6. 長期均衡における 1 人あたり資本  $k^*$  が,

$$k^* = \left\{ \frac{[(1-\tau)s + \tau]A}{n} \right\}^{\frac{1}{1-\alpha}} \quad (16)$$

となることを示せ.

7. 長期の経済成長率は, 人口成長率に一致することを示せ.

8. 問題 1, 3, 6 の結果を用いて, 長期均衡における 1 人あたり消費が次式で与えられることを示せ.

$$\frac{C_t}{L_t} = (1-s)(1-\tau)A \left\{ \frac{[(1-\tau)s + \tau]A}{n} \right\}^{\frac{\alpha}{1-\alpha}} \quad (17)$$

9. 長期均衡における 1 人あたり消費が最大となる所得税率  $\tau^*$  を求めよ.

### 解答

1. (9), (10), (11) 式より,  $C_t = Y_t - I_t - G_t = (1-\tau)Y_t - s(1-\tau)Y_t = (1-s)(1-\tau)Y_t$ .

2. (10), (11), (12), (13), (14) 式より.

3. (13) 式の両辺を  $L_t$  で割る.

4. 問題 2 の 2 式を辺々で割る.

5. 略

6. (6) 式で,  $k_t = k_{t+1} = k^*$  とおく.

7.  $Y_{t+1}/Y_t = (y^*L_{t+1})/(y^*L_t) = n$ .

8. 略

9. (17) 式中の  $\tau$  の項に注目する.

$$f(\tau) = (1-\tau)[(1-\tau)s + \tau]^{\frac{\alpha}{1-\alpha}}$$

ここで,

$$x = (1-\tau)s + \tau$$

とおくと,

$$\tau = \frac{x-s}{1-s} \Rightarrow 1-\tau = \frac{1-x}{1-s}$$

したがって,

$$f(\tau) = \frac{1}{1-s}(1-x)x^{\frac{\alpha}{1-\alpha}} = g(x)$$

例題 1 の問題 8 と同じなので,  $g(x)$  が最大になるのは,  $x^* = \alpha$  のとき. 最適所得税率は,

$$(1-\tau)s + \tau = \alpha \Rightarrow \tau^* = \frac{\alpha-s}{1-s}$$

である. 民間の貯蓄率が小さいとき ( $s < \alpha$ ), 公共投資をおこなうのが望ましい.

このモデルでの公共投資の目的は, マクロの貯蓄率  $(1-\tau)s + \tau$  が, 民間資本の生産弾力性  $\frac{K}{Y} \frac{\partial Y}{\partial K} = \alpha$  に一致するように誘導することである.

花子「先生, コピペ」

太郎「ソローモデルってちょっとかつこい」